

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

病み上がり遅まきを詫び初詣

池田 安起徒

坂道のくの字曲がりや水仙花

宮路 生大子

初句会産土神へ鈴を振る

本浦 玲子

大陽俳句会

若水や円くまあるく米を磨ぐ

岩重 みどり

日暮れまで遊べば光る竜の玉

福村 よう子

被爆の子八十回の初日見ず

鍋山 美智子

短歌

末吉短歌会

とつとつと語る親鸞唯円は

生糸吐くがに歎異抄を編む

大森 巳喜生

おごそかに上る初日を拝みをり
闘病生活振り返りつつ

泊 康

髪長媛の産湯を浴びし湧き水の
ほとりを歩く初日をあびて

平田 美穂子

大陽短歌会

新春の海辺のドライブ立ち寄りし
店に地蛸の茹でたてのあり

川辺 敦子

冬の田に鳴き声高き鴉一羽
集団が挑み突かれており

北村 弘子

老眼鏡越しに見つむる己が皮膚
レモン果汁を吸わせてやらん

西山 美代子

財部短歌会

けあらしは里見な消して銀世界
そのなか走る電車も真白

井上 澄子

床の間に活けたる松の清々し
屠蘇をふふめば新年の来る

脇丸 洋子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

シヤツタ街 曆も連れで
毎年減つ

胡摩ヶ野 べぶまつ

呆け爺さん 曆の丸は
頭練つ

博多 夜舟

正月の 巳年の曆に
計画を書つ

浜田 一好

朝起き 見つけた曆ん
今日は何日

桐野 奈世

メモ曆 書た字見えじ
苦勞しつ

西留 辰子

病んでみつ なって気がちた
婆ん身体

山中 ミツどん